

「東村山市版 算数基礎ドリル」について

★本ドリル作成の経緯及び今後の取組予定

◎平成24年度

- ・本市の児童・生徒の学力向上について、過去5年間の東京都「児童・生徒の学力向上を図るための調査」結果を分析
 - 特に小学校算数において課題。中学校数学においても、小学校段階における基礎・基本のより一層の定着が喫緊の課題。
 - 小学校算数における基礎学力の定着及び学力の向上を図るため、子供たちが学習の中で達成感を味わい、興味や関心を高める教材の開発を行い、その活用を推進する特設委員会を設置（「基礎学力向上推進委員会」）。
- ・基礎学力向上推進委員会の取組（平成24年度）
 - 組織：教育委員会（副参事、指導主事2名）、顧問校長（小学校長1名）、顧問副校長（小学校副校長1名）、委員（小学校より各1名）
 - 年間10回の委員会の活動においてドリル作成

◎平成25年度

- ・平成24年度に作成したドリル（四則計算編）の活用と検証
- ・「図形」や「数量関係」など、領域を拡大した教材開発

◎平成26年度以降

- ・平成25年度に作成したドリルの活用と検証
- ・小学校算数における他の領域に係る教材開発や中学校数学に係る教材開発の検討

★本ドリルの活用について

1 ねらい

- ◎四則計算について、計算の仕方やつまづきのポイントを学びながら、スモールステップ型の練習問題をとおり、子供たちが達成感を味わうとともに、興味や関心を高めながら基礎的・基本的な学習の定着を図る。

2 学習内容

- ◎別紙 四則計算別一覧表参照

3 実施方法

- ◎各学校の児童の実態や教育課程に応じて、下記の例を参考にして実施する。

○例1 授業時間

- ・教科書の計算練習やドリル学習等において、教師が児童のつまづきを診断し、習熟が十分でない場合に実施する。
- ・単元の導入時（前学年のふり返りや前時のふり返り）等において、レディネス問題として活用する。

○例2 朝学習（朝ドリル）

- ・朝の5～10分間を活用して実施する。
- ・教師が児童のつまづきの実態を診断し、つまづきの前段階の内容から取り組ませたり、児童自らがつまづきを自己診断し、取り組む内容を選択し、自学自習用として活用する。

○例3 個別指導

- ・教師が児童のつまづきの実態を診断し、つまづきの前段階の内容から取り組ませる。
- ・放課後の補習や長期休業中の学習教室等で活用する。

○例4 家庭学習

- ・教師が児童のつまづきの実態を診断し、つまづきの前段階の内容から取り組ませたり、児童自らがつまづきを自己診断し、取り組む内容を選択し、自学自習用として活用する。
- ・宿題や長期休業中の家庭学習等で活用する。

4 その他

- ◎一覧表には対象学年を示してあるが、児童一人一人の実態に応じた活用を図る。
- ◎児童の興味や関心を高める方法として、合格証（認定証や修了証）を各学校で作成するのもよい。
- ◎用紙のサイズや級別の設定は、各学校で工夫する。
- ◎各学校には、電子データも提供しているで、空欄に数値を記入したり、問題の数値を変えたり、新たなドリルページを作成するなど、各学校の実態に応じた活用を図る。